

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190202192		
法人名	株式会社フロンティア		
事業所名	グループホームウエルスタイル屯田2号館 1F		
所在地	札幌市北区屯田4条4丁目12-34		
自己評価作成日	令和6年3月14日	評価結果市町村受理日	令和6年4月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>* 午前・午後のレクレーションを行っています。</li> <li>* 利用者様・ご家族様の気持ちを理解しケア方針を決めている。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の住宅地にある2階建て2ユニット、開設後約1年のグループホームである。周辺にはスーパー、コンビニエンスストア、バス停、小学校、郵便局などがあり、隣接地には同一法人が運営する2ユニットのグループホームがある。建物は清潔で、広い共用空間を中心に居室が配置されている。車いす用のトイレがあり、室内各所には利用者が認識しやすい色彩の配慮を施すなどバリアフリーが行き届いている。運営法人が市内で他に2つのグループホームを運営しており、法人の支援や他のグループホームとの協力が得られている。各種の委員会、運営推進会議、内部研修、個人面談などが年間を通して計画的に実施されている。家族との関係では、得られた意見を「入居者様申し送り記録」に記載し特徴を把握してサービスの向上につなげている。ケアマネジメントの面では、個々のフェイスシートで生活歴や趣味・嗜好などを詳しく把握することができている。食事では、誕生日などで通常メニューを変更したり、手作りおやつを提供、ラーメンのケータリングサービスの受け入れなどで変化を楽しんでいる。外出支援は日常的な散歩や近くのスーパーでの買い物に出かけるほか、定期的な外出行事も行くことができている。快適な環境と温かい支援のもと、安心して過ごすことのできるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有スペースに貼り、職員の目につくようにし、日の浅い職員にもわかりやすくしている。また、フロア理念は 経験の浅い職員でも実践しやすいように設定しお互いで声を掛けあって楽しい環境作りに努めている。	事業所の理念である「明るく、楽しく、笑顔のある暮らし」を各ユニットに掲示し共有している。現状は、理念の文言や内容に地域密着型サービスの意義が含まれているとはいえない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた文言や内容を事業所理念に加えることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出レクなどでもお祭りや、近所の行事に参加したり、買い物の際には近所のスーパーに行くなどで徐々に交流の機会をふやしている。	散歩の際に利用者が住民と挨拶を交わしたり、除雪の際に職員が隣人と会話をしている。近くのスーパーやコンビニエンスストアに出かける利用者もいる。感染症が収束したら子供やボランティアとの交流も増やしたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方への発信を行っているとともに、地域での買い物行事等を行ったり、除雪の際にも交流を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に管理者、計画作成者が担当しており、事故報告やその後の取り組み、行事活動などの報告を行うとともに、参加者からの質問時間を設けてサービスの向上を図っている。	会議を2か月ごとに開催し、地域包括支援センター、町内会長、家族、運営法人関係者などがメンバーとなっている。地域包括支援センターや運営法人から情報提供を受け、会議のテーマを設定している。議事録を全メンバーに送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	手続きや解釈などで疑問に感じたことや、不安なことを迅速に市の担当者に連絡を取り解決へつながるよう対応している。	運営推進会議で地域包括支援センターから情報提供を受けている。何かあれば市とは主にメールで、区とは電話で相談している。区の管理者会議が再開したため今後は継続的に出席し、行政担当者との関係を深めたいと考えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議での定期的な研修を行いBPSDの原因となり得る中核症状へのアプローチを実施。拘束にあたらぬ介助方法の検証と検討を行い実践している。	身体拘束を行っておらず、年4回の委員会と年2回の内部研修を行っている。委員会では具体的な禁止行為を確認し、職員の理解を促している。玄関は日中も施錠しているが、利用者の外出意向を察知した場合は一緒に玄関先で外を眺めるなど、閉塞感を与えないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行うとともに、気づかずにやってしまっているかもしれない不適切ケアにも焦点をあて、職員間で声をかけあうことの大切さを学び実践に努めている。		

グループホームウエルスタイル屯田2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員参加の社内研修を定期的に行っており、利用者様個々の必要性に応じて支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が担当しており、その際には担当者会議を開催し疑問点等の質疑応答を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等から運営推進会議、その他の機会にいただいた意見は、施設内全体会議や申し送りにて共有を行っている。	運営推進会議の際や家族の来訪時に意見を聞いている。家族とのやり取りを「入居者様申し送り記録」に記載するとともに、タブレット端末でも内容を共有している。毎月写真入りの「2号館通信」を作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談や希望時に面談する機会を設けており、職員の意見を聞き取り、必要がある場合には反映している。	月1回、全体会議とカンファレンスを行い、活発に意見交換している。管理者は職員と年2回の面談と随時の面談をしている。身体拘束、感染症などの委員会、および行事、環境整備、備品管理などの係を職員が分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が管理者に対し、業務からプライベートに関しても話しやすく、相談も行え、負担少なく働きやすい環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から専門職などの講師を招いての研修や、職員の介護時の不安や困難事例に合わせた研修の提案、実施を行うとともに外部研修参加の促しや案内を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	.GH会議や他事業所との合同研修など交流のできる機会を設け困難事例などについても話し合いの機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の意を引き出せるコミュニケーションを意識し、事前の見学や担当者会議にて本人要望等を伺う機会を設けて安心して生活できるよう努めている。入居前の様子についてもこまめな電話連絡などでご本人の安心できる環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談時や初回の担当者会議の際には、ご家族の要望や意見の聞き取りを行いながら支援の提案を行っている。入居後も生活の様子などを面会に来れない家族様には電話でお知らせしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、在宅での生活が可能でないか。本人・ご家族が望む生活支援が可能であるか相談を行い、困難な際には他の支援機関の情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を守りながらコミュニケーションを行い、生活リハビリを通じ、食器拭きや食事の盛り付け、洗濯物たたみ等を行ってもらい、互いに支えあう関係を気づけるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の気持ちや希望を代弁し、面会や連絡時にこまめに伝えることで、情報を共有しながら一緒に考え、支える環境作りを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了承を得ながら、友人様の面会や手紙のやり取りを行っており、手紙を返信する際には支援をしている。	1～2名の利用者に友人や知人が来訪している。友人からの電話を取り次いだり、手紙の返事の作成を職員が手伝うこともある。行事では地域の神社にも出かけている。家族と行きつけの美容院に行ったり、自宅を見に行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用同士の関係が円滑に行えるよう見守りや必要時には介入し話題を逸らせたり、個別での活動とは別に集団活動の機会を設け動作等が困難な入居者に対しても輪の中に入れてもらうことで、疎外感なく過ごせるよう努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、いつでも相談頂きたい事をお伝えしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的な面談と共に、日々の関わりの中で出た希望や意向、表現が困難な入居者の場合にはできる限り寄り添い事のできるよう情報収集を行い対応している。	9割ほどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい場合も問いかけの反応や表情から把握している。フェイスシートに生活歴や趣味・嗜好などを載せ、定期的に更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの聞き取りを行い、フェイスシートでの共有を行っている。また、活動の中でお話されたことの共有も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の記録やアセスメントを繰り返し行うとともに、カンファレンスにて職員への聞き取りを行う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時や必要時には意見の聞き取りが行える場を設け、カンファレンスにて職員へ共有を行い介護計画を作成している。	介護計画を3か月ごとに見直ししている。評価表をもとにカンファレンスで意見集約し、計画を更新している。タブレット端末を用いて日々の個別記録を作成しているが、計画目標を意識した記録を十分に行っていない。	計画の短期目標に例えば「Ⅰ-1」「Ⅱ-2」などの番号を振り、タブレットでケアプランに関する記事を記載する際には該当する番号「Ⅱ-2」を添えるなど、計画目標を意識した記録の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	取り組みや支援等詳細に残すことに努めており、他職員がすぐに確認できる環境となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズは変化するため、必要に応じて柔軟な対応、支援が行えるよう努めており、1階・2階と確執なくアドバイスや意見交換ができる環境となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを招いての行事や定期的な音楽療法を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診を受けており、必要時にはご家族に相談するとともに、専門医への受診の必要性の相談等をこまめに行い、利用者・家族に負担少なく安心できる環境作りを努めている。	協力医(内科)による2週に1回の往診があり、ほとんどの利用者が受診している。歯科と皮膚科も往診がある。その他の通院は概ね家族が通院を支援している。受診内容を利用者ごとの「診療情報記録」に詳しく記載し共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の排泄状況や体調の変化などを記録し 訪問看護師に知らせるとともに、口頭でも詳細の申し送り、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の迅速な情報提供を心掛けており、入院期間中にはこまめに病院への連絡や退院に向けた相談や調整を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には管理者より説明が行われ、同意を得て利用されており、重度化した際には、今後も含めた話し合いをする機会を設けている。	利用開始時に「重度化に関する指針」を説明し、同意書に署名捺印を得ている。現在、事業所での看取りを行っていないが、将来的に看取りを行えるよう職員研修などを進める方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行うとともに、フローチャートの作成、掲示を行っており、緊急時に落ち着いて対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練や緊急時の連絡網の設置を行っているが、地域との連携は管理者等が担当しており不明。	年2回、消防設備会社の助言を得ながら、昼夜を想定した火災と地震の避難訓練を実施している。備蓄品を用意し、救急救命訓練も行っている。避難訓練への住民の参加、および地震の初期対応等の確認は今後の課題である。	避難訓練に地域の参加が得られるよう、継続的な働きかけを期待したい。また、法人の地震対応マニュアルや行政の防災ガイドブック等を参考に、地震時の初期対応やケア場面別の対応について定期的に確認することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の理解し個別体調の努力を行っており、丁寧な対応を心がけている。	法人の社内研修で全職員が毎年接遇の研修を受けている。日常的に言葉かけの内容や声のトーン、語尾等を意識しケアしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動の合間には意見を聞き取る機会を作り、活動の際には食事のメニューを選んで頂くなど自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを優先し、気分や体調の確認と共に、一日どのように過ごしたいかの希望を伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など本人と一緒に衣服を選ぶ際には、2択にするなどご本人が選びやすい声掛けの工夫を行っています。		

グループホームウエルスタイル屯田2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食後には食器拭きや片付けに参加していただき、その他一緒に行事食のメニューや材料を考え、おやつ作りも定期的に行っている。	食材会社の献立、副食の提供を受けている。週1回は手作りおやつのを企画し桜餅作りなどを行なっている。ラーメンのケータリング等も行い好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や摂取状況を記録に残すとともに、個々の視力や握力などに応じた食器を選択するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアを行っており、義歯を使用されている方は義歯洗浄剤にて洗浄を行っています。歯磨き粉は個別に好みの味のものをご家族様に持参していただいています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	コントロールが必要な利用者に対しては排泄表を作り、情報を集めて適時誘導できるよう対応しています。自立されている入居者に関しては活動の合間のタイミングで声掛けを行い、トイレでの排泄が続けられるように支援しています。	トイレでの排泄が自立している利用者は6~7割程度で、その他は排泄記録をもとに排泄パターンを把握し、適宜誘導したり、衛生材料の交換を行ったりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の調整を行ったり、必要な方は主治医への相談を行っています。乳製品を個別で提供、便秘予防の運動等も取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お湯の温度や入る時間も個別に設定、職員間で知り得た情報を共有し対応している	日曜日以外の午前の時間帯で、各利用者が週2回程度入浴している。リフトを使用し、全員が湯船に入ることができる。希望があれば同性介助とし、一人ずつ湯の入れ替えを行い、好みの温度に調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の希望時には居室で休息して頂いている。臥床傾向にならないよう時間を見て活動への参加を促している。夜間帯では、その日の雰囲気や本人の希望にて就寝できるよう伺うよう心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携を図り副作用や服用法の留意点などの利用者から服薬の質問に答えられるよう情報把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリ(食事の盛り付け、後片付けや洗濯物たたみ等)や食事・おやつ作りといった活動を行っています。また、余暇時には希望される脳トレや塗り絵といった趣味活動を提供しています。		

グループホームウエルスタイル屯田2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族より希望があった際には、当日でも対応している。利用者に希望を聞きながら計画を立て行事により買い物や外食などを行っています。地域や家族との連携はまだできていませんが、計画案が出ています。	日常的に、近所の散歩やスーパーマーケットやコンビニでの買い物を行っている。居間からベランダへ出てお茶の時間とするなど外気に触れる機会がある。月に1回程度、車で百合が原公園や花見に出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出たり、脳トレを行っています。また、移動販売が来た際には、個人で預かっているお金から出費し好きな物を購入できるようにしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせて電話での連絡を取れる体制を整えており、手紙が届いている入居者に対しては返信ができるよう声掛けをしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの位置は文字だけではなく 絵でも表示しわかりやすくしている。また、季節を感じられるような装飾物を、レクリエーションなどの時間に入居者様と共に作成し飾っている。	広く開放的なリビングでゆったりと過ごせるようになっている。居間からベランダや庭の畑に出ることができ、野菜の収穫を楽しむ事ができる。トイレや浴室のドアは視覚的に判別できるよう工夫されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ一席を設け、他者とゆっくりと話せたり、一人になれる空間作りをおこなっている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の昔の写真をご家族様に持参して頂いたり、家具においても好み、又は使いやすさなどで選択して頂き準備して頂いている。	居室には、介護用ベッドが備え付けられており、利用者の状況に合わせて、手すりや家具調ポータブルトイレが用意されている。家族の写真や使い慣れた椅子などの家具を持参し居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置は文字だけではなく 絵でも表示しわかりやすくしている。また、季節を感じられるような装飾物を、レクリエーションなどの時間に入居者様と共に作成し飾っている。			



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190202192		
法人名	株式会社フロンティア		
事業所名	グループホームウエルスタイル屯田2号館 2F		
所在地	札幌市北区屯田4条4丁目12-34		
自己評価作成日	令和6年3月6日	評価結果市町村受理日	令和6年4月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>* 午前・午後のレクリエーションを行っています。</li> <li>* 利用者様・ご家族様の気持ちを理解しケア方針を決めている。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日が浅い職員もあり、全体に浸透していない部分もあるが、不安なく笑顔あふれる暮らしができるよう、日々のレク活動や行事に力を入れている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設から1年の為、ほとんどの交流を管理者に委ねているが、行事の際に地域のスーパーで買い物したり、外出した際には挨拶や交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方への発信を行っているとともに、地域での買い物行事等を行ったり、除雪の際にも交流を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に管理者、計画作成者が担当しており、事故報告やその後の取り組み、行事活動などの報告を行うとともに、参加者からの質問時間を設けてサービスの向上を図っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問に感じたことや、不安なことを迅速に市の担当者と連絡を取り解決へつながるよう対応している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所玄関はセキュリティの為オートロックだが、すぐに出入りが行える体制に鳴っており、全体会議での定期的な研修や安全に配慮しながら拘束にあたらない介助方法の検討を行い実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行うとともに、気づかずに行ってしまっているかもしれない不適切ケアにも焦点をあて、職員間で声をかけあうことの大切さを学んでいる。		

グループホームウエルスタイル屯田2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員参加の社内研修を定期的に行っており、利用者様個々の必要性に応じて支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が担当しており、その際には担当者会議を開催し疑問点等の質疑応答を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等から運営推進会議、その他の機会にいただいた意見は、施設内全体会議や申し送りにて共有を行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談や希望時に面談する機会を設けており、職員の意見を聞き取り、必要がある場合には反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が管理者に対し、業務からプライベートに関しても話しやすく、相談も行え、負担少なく働きやすい環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から講師を招いての研修や、職員の状況に合わせた研修の提案を行っているとともに、希望する研修に参加できる機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH会議や他事業所との合同研修など交流のできる機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを大切にし、事前の見学や担当者会議にて本人要望等を伺う機会を設けて安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談時や初回の担当者会議の際には、ご家族の要望や意見の聞き取りを行いながら支援の提案を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、ホームでの生活が本人・ご家族が望む生活となりうるのかの相談を行い、困難な際には他の支援機関の情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を守りながらコミュニケーションを行い、生活リハビリを通じ、食器拭きや食事の盛り付け、洗濯物たたみ等を行ってもらい、互いに支えあう関係を気づけるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の気持ちや希望を代弁し、面会や連絡時にこまめに伝えることで、情報を共有しながら一緒に考え、支える環境作りを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了承を得ながら、友人様の面会や手紙のやり取りを行っており、手紙を返信する際には支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が円滑に行えるよう見守りや必要時には介入し話題を逸らせたり、個別での活動とは別に集団活動の機会を設け動作等が困難な入居者に対しても輪の中に入れてもらうことで、疎外感なく過ごせるよう努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から相談の連絡をいただいた際には、相談に応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的な面談と共に、日々の関わりの中で出た希望や意向、表現が困難な入居者の場合にはできる限り寄り添い事のできるよう情報収集を行い対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの聞き取りを行い、フェイスシートでの共有を行っている。また、活動の中でお話しされたことの共有も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の記録やアセスメントを繰り返し行うとともに、カンファレンスにて職員への聞き取りを行う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時や必要時には意見の聞き取りが行える場を設け、カンファレンスにて職員へ共有を行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	取り組みや支援等詳細に残すことに努めており、他職員がすぐに確認できる環境となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズは変化するため、必要に応じて柔軟な対応、支援が行えるよう努めており、1階・2階と確執なくアドバイスや意見交換ができる環境となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを招いての行事や定期的な音楽療法を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診を受けており、必要時にはご家族に相談するとともに、専門医への受診の必要性の相談等をこまめに行い、利用者・家族に負担少なく安心できる環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に申し送り等での情報提供を行うとともに、疑問や質問を相談し支援方法を検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の迅速な情報提供を心掛けており、入院期間中にはこまめに病院への連絡や退院に向けた相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には管理者より説明が行われ、同意を得て利用されており、重度化した際には、今後も含めた話し合いをする機会を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行うとともに、フローチャートの作成、掲示を行っており、緊急時に落ち着いて対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練や緊急時の連絡網の設置を行っているが、地域との連携は管理者等が担当しており不明。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を理解する努力を行っており、丁寧な対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動の合間には意見を聞き取る機会を作り、活動の際には食事のメニューを選んで頂くなど自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを優先し、気分や体調の確認と共に、一日どのように過ごしたいかの希望を伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には本人と一緒に衣服を選ぶとともに整頓された選びやすい環境作りを努めている。また、洗顔・整容等では利用者のこだわりを理解し声掛けを行っている。		

グループホームウエルスタイル屯田2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食事の盛り付けや後片付けに参加していただき、その他一緒に行事食のメニューを考え、おやつ作りも定期的に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や摂取状況を記録に残し、個々の支援にて今何か必要か等の検討を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後に口腔ケアを行っており、義歯を使用されている方は義歯洗浄剤にて洗浄を行っています。また、義歯を使用されていない方は、歯科の往診が受けられるよう支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	コントロールが必要な利用者に対しては排泄表を作り、情報を集めて適時誘導できるよう対応しています。自立されている入居者に関しては活動の合間のタイミングで声掛けを行い、トイレでの排泄が続けられるように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の調整を行ったり、必要な方は主治医への相談を行っています。乳製品を個別で提供、便秘予防の運動等も取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎週の外出予定がある方には予定の前日に入浴できるように予定表を組んでいます。また、入浴日には本人に何時に入りたいかの希望を伺ったり入浴予定をずらしたりと対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は希望時には居室で過ごしていただき、静養時間が多くなるよう時間を見てフロアへの声掛けを行っています。夜間帯では、その日の雰囲気や本人の希望にて就寝できるよう伺うよう心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食一人の職員が服薬にあたり、誤薬が無いよう2重チェック、残薬が無いよう2重チェックを行っています。また、利用者から服薬の質問に答えられるよう情報把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリ(食事の盛り付け、後片付けや洗濯物たたみ等)や食事・おやつ作りといった活動を行っています。また、余暇時には希望される脳トレや塗り絵といった趣味活動を提供しています。		

グループホームウエルスタイル屯田2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族より希望があった際には、当日でも対応し、利用者に希望を聞きながら計画を立て行事により買い物や外食などを行っています。地域や家族との連携はまだできていませんが、計画案が出ています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出たり、脳トレを行っています。また、移動販売が来た際には、個人で預かっているお金から出費し好きな物を購入できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせて電話での連絡を取れる体制を整えており、手紙が届いている入居者に対しては返信ができるよう声掛けをしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強い刺激とならないように季節を感じられる装飾や献立、行事時の写真をフロアにて行っています。トイレ、浴室には認知症の方が見やすい色を使っており、整理整頓をいつも心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に合わせての席配置を行ったり、ソファ席、カウンターといった一人休まる空間を作っています。トラブルにならないよう職員が間に座る等の対応も行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたや今まで使用しており馴染みのある生活用品を配置していただいております。その中で怪我等へ繋がりそうな危険物に関してはご家族と相談の上設置を決めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ居室に手摺を設置したり、入浴日や掃除の日を掲示。その他導線を塞がないようなフロア物品の配置を行っています。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホームウエルスタイル屯田2号館

作成日：令和 6年 4月 11日

市町村受理日：令和 6年 4月 15日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着型サービスの意義を踏まえた内容の事業所理念を加える事	事業所理念に地域密着型サービスである事を追加し地域に根付いた、より良いケアを目指していく。	地域行事の参加を増やし、慣れ親しんだ場所にする。町内から入居された方もいるので、近所の方との交流を増やしていく。	6か月
2	26	計画の短期目標に、「1-1」「1-2」など番号をふりタブレットでケアプランに関する事を記載する際は該当する番号を添えるなど、計画目標を意識した記録作成を期待したい	入居者様それぞれのケアプランを職員がしっかりと把握し、計画にそった記録が記入できるようにする	ケアプランに番号を記載し、しっかりと職員が把握して記録入力を行っていく。前職員が、計画に添った記録が入力できるようにする。	1年
3	35	避難訓練に地域の方が参加を得られるよう継続的な働きかけを期待したい。 地震対応マニュアルや初期対応を定期的に確認する事を期待したい	年2回の避難訓練の参加への呼びかけ 災害時の初期対応マニュアルを、ガイドブック等で再確認行う。	避難訓練の際は、近所の参加をお願いし避難場所までの移動を練習行う。 屯田地区の防災ガイドブックを参考に、BCPを再度確認行う。 職員がわかる初期対応マニュアルの作成をする。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。